とちぎ 米麦改良

令和５年５月
第129号

(公社)栃木県米麦改良協会
宇都宮市平出工業団地9番地25
☎(028)616-8700

これからの種子生産について

栃木県農政部生産振興課長　鈴木　正光

本県の農業は、大消費地である首都圏に位置するという立地条件、農業者の高い技術力などの強みを生かし、土地利用型作物の規模拡大や、施設園芸の高度化、露地野菜の生産拡大など、収益性の高い農業を展開し、着実に成長して参りました。

しかしながら、農業を取り巻く情勢は、少子高齢化に伴う担い手の減少、不安定な国際情勢による食料や農業資材等の価格高騰、気象災害の頻発化など大きく変化しております。そこで、国では食料の安定供給に対するリスクの高まりに対応するため、食料・農業・農村基本法の改正を見据えた検証を行っているところです。

このような中、県では農業を成長産業として持続的に発展させていくため、本県の強みを生かし、米を始め、国内需要が高まる麦・大豆等の生産拡大を図るなど、水田を活用した収益性の高い農業を展開していくことが重要であると考えております。

基幹作物である米については、引き続き、栃木県農業再生協議会において策定した「栃木の需要に応じた米づくり推進方針」に基づき、関係機関・団体と一体となって収益性の高い水田農業の展開に向け、需要が見込まれるマーケットに的確に対応した米づくりや麦・大豆などへの作付転換も含めた水田フル活用を推進して参ります。

そのため、令和２年４月に県が施行した「栃木県奨励品種の優良な種苗の安定供給に関する条例」に基づき、関係者の皆様とともに、農業生産の基本となる優良な種苗の確保を図って参ります。

特に、稲・麦・大豆においては、水稲「とちぎの星」や小麦「ゆめかおり」、大豆「里のほほえみ」など、需要が増加している品種・品目の種子の増産及び供給体制を整えていくことが求められております。

また、種子生産を巡る状況は、採種農家の高齢化や種子センターの老朽化等が課題となっております。つきましては、これらの課題解決に向けた検討を進めるとともに、需要の変化にも的確に対応しながら、優良種子の安定生産を担う貴協会並びに会員の皆様と連携して、種子の生産･供給体制強化の支援をして参りますので、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」の実現に向け、皆様のより一層の御理解と御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和４年産大豆の作柄及び令和５年産大豆の安定多収に向けたポイントについて

栃木県農政部経営技術課

１　令和４年産大豆の作柄概況

○収量
187kg/10a※（平年 160kg/10a）
※北海道 252kg/10a に次ぐ全国２位
○大粒大豆の１・２等割合
66％（平年 72％）
○作柄
やや良

（収量・等級割合は農林水産省発表。等級割合は令和５年１月 31 日現在の速報値。）

■天候と生育
○播種時期（６月～７月）
播種作業は、６月の降水量が平年を下回ったことから（平年比：大田原 87％、宇都宮 46％、小山 42％）、順調に行われ、苗立ちも概ね良好でした。
なお、播種作業は７月中旬までに概ね終了しました。
その後の生育は、令和４年産大豆の特徴でありますが、草丈がやや高く、葉色もやや濃い傾向で、充実した初期生育となりました。
また、中耕・培土等の管理作業は適期に行われました。
○開花期～子実肥大期（８月上旬～９月）
開花は８月上旬頃から始まり、着莢数は平年並～やや多い傾向でした。
８月上旬に高温となる日があり、落花が懸念されましたが､大きな影響はありませんでした。
８月中旬～９月上旬にかけては平年に比べ、日照不足となり、小粒化が懸念されましたが、大きな影響はありませんでした。
９月中旬～下旬に台風 14・15 号が接近しましたが、病害の発生を含め、影響はほとんどありませんでした。
○成熟期（10 月～ 12 月）
10 月からは黄化が進み、播種が早かったほ場を中心に 11 月上旬から収穫が開始されました。
11 月中旬には、播種時期の早晩により違いがみられますが、適期に播種されたほ場では成熟期を迎えました。収量は平年に比べ高く、倒伏はほとんど見られませんでした。
ただし、この時期にまとまった降雨がありました。

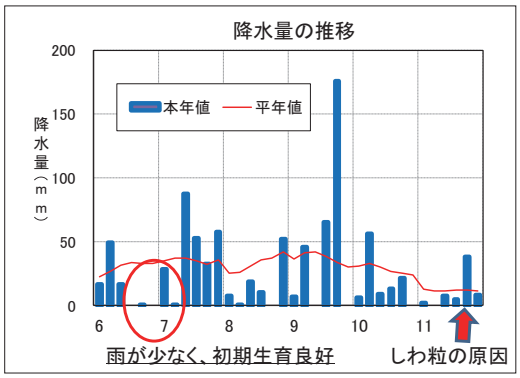
【アメダス地点：宇都宮】

11 月 23 日	29.0mm
11 月 29 ～ 30 日合計	7.5mm
12 月５～６日合計	9.0mm

この降雨により一部の地域では、しわ粒の発生原因となりました。
○病害・雑草の発生状況
葉上にべと病が、開花期の 10 日前くらいから各地で散見されました。しかし、８月に降雨が少なかったこともあり、大きな被害になりませんでした。
雑草については、帰化アサガオ類の発生が各地で確認されました。次年産以降、十分な対策が必要となりますので、注意してください。

【参考】生育期間の気象データ（アメダス地点:宇都宮）
○気温
月別の平均気温は平年に比較して高めに推移しました。６月は平年に比べ 1.0℃、７月は 1.8℃、８月は 0.6℃ ９月は 1.2℃、11 月は 1.8℃高くなりました。
○降水量
月別の降水量は、平年比で６月は 47％、７

月は 120%、８月は 45%、９月は 135%、10 月は 61%、11 月は 85%でした。



○日照

月別の日照は、平年比で６月は 122%、７月は 113%、８月は 86%、９月は 109%、10 月は 102%、11 月は 109%でした。特に、８月下旬は日照が少なく、平年比で 57%となりました。

２　令和５年産大豆の安定多収に向けたポイント～排水対策と適期播種～

令和４年産大豆の生育が良く、収量が高かった要因は、適期に播種された上で、その後、初期生育中の降雨が少なく、充実した初期生育が確保できたことだと分析しています。

令和５年産でも、同じような生育を確保できるように、「排水対策」と「適期播種」に取り組んでください。

１）排水対策

①額縁明渠の設置

地表水の早期排除のため、ほ場周囲に排水溝（明渠）を設置します。排水口は低く掘り下げて排水路につないでください。

②心土破砕

プラソイラ等により浸透排水性を高めて下さい。

プラソイラ

スタブルカルチ

２）適期播種

播種適期：６月 15 日～７月５日。

適期に比べ播種が早すぎると、①主茎が伸びて倒伏しやすくなり、②過繁茂により病虫害の発生が多くなり、③分枝数・莢数が多くなり過ぎ、株内の熟ムラにつながります。

遅すぎると①生育量不足で大幅に減収し、②時には早霜で成熟に至らない年もあります。特に麦跡の場合は遅れないようにしましょう。

３）適期収穫

令和４年産では、収穫期の降雨によりしわ粒が発生しました。収穫が早すぎると茎汁等による汚損粒や破砕粒が発生しやすくなり、遅れると自然裂莢による収穫ロスや割れ粒・亀甲（かぶと）じわ粒が多くなります。

適期を逃さず収穫することで、降雨による被害に遭うリスクを可能な限り減らしてください。

なお、汚損粒発生防止のため茎水分 40%以下、破砕粒発生防止のため子実水分 18%以下になってから収穫しましょう。

茎水分の目安
70%：緑色が残る
60%：莢とおなじ褐色
40%：ほとんどの茎が黒変開始し、剥皮率が 30%程度 手で折ると軽くポキと折れる

子実水分の目安
20%：噛むと音がせずに割れる
18%：爪を立てると少し跡が残る
15%：噛むとパリッと割れる

○大豆作付け拡大について

国産大豆の需要は堅調であり、国の助成事業等も充実しています。また、栃木県では需要に対して供給が足りない状況です。大豆生産拡大に御協力をお願いします。

令和４年産水稲種子生産実績及び
令和５年産水稲種子生産計画について

１　令和４年産水稲種子の生産実績

概ね春先から収穫期まで天候に恵まれ順調な生育となりました。８月中旬～９上旬月の降雨と日照不足により一部品種で倒伏が発生は散見されましたが、品質に大きな影響はなく、数量については、契約対比100％と必要種子量を確保することができました。

種子生産者並びに関係機関の皆様へこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

２　令和５年産水稲種子の生産計画

令和５年２月６日に開催した令和５年産稲種子生産ほ場設置計画会議において、生産計画が承認されました。

国が令和４年12月に令和６年産から８年産にかけて飼料用多収品種以外の支援水準を段階的に引き下げることを決定したことを受け、新たに飼料用米多収品種種子の生産を開始します。

令和4年産稲種子生産実績

単位:a, kg, %

品種名	ＪＡ名	面積	契約数量	実績数量	対比	合格・消毒	合格・未消毒	準・消毒	準・未消毒
コシヒカリ	なすの	16,590	663,600	663,600	100	203,000	460,600		
	なす南	7,050	282,000	282,000	100	195,500	86,500		
	小計	23,640	945,600	945,600	100	398,500	547,100	0	0
あさひの夢	しもつけ	8,100	356,400	356,400	100	158,000	198,400		
なすひかり	しおのや	1,670	66,800	66,800	100	5,000	61,800		
とちぎの星	しもつけ	3,750	165,000	165,000	100	95,900	69,100		
	はが野	3,750	165,000	165,000	100	30,000	135,000		
	小計	7,500	330,000	330,000	100	125,900	204,100		
夢ささら	なすの	30	1,200	1,200	100	0	1,200		
水稲うるち計		40,940	1,700,000	1,700,000	100	687,400	1,012,600	0	0
きぬはなもち	しもつけ	400	14,400	14,400	100	0	14,400		
水稲もち計		400	14,400	14,400	100	0	14,400	0	0
水稲計		41,340	1,714,400	1,714,400	100	687,400	1,027,000	0	0
合計		41,340	1,714,400	1,714,400	100	687,400	1,027,000	0	0

（有機栽培種子）

品種名	法人名	面積	契約数量	実績数量	対比	合格・未消毒	備考
コシヒカリ	民間稲作	100.0	1,300	1,680	129	1,680	NPO法人(上三川町)
合計		100.0	1,300	1,680	129	1,680	

令和5年産稲種子生産計画

ア、品種別

単位:a. Kg

種類	品種名	令和5年産種子生産計画			令和4年産種子生産計画			摘要
		面積	反収	数量	面積	反収	数量	
水稲	コシヒカリ	22,200	400	888,000	23,640	400	945,600	
	あさひの夢	3,320	440	146,080	8,100	440	356,400	
	なすひかり	1,070	400	42,800	1,670	400	66,800	
	とちぎの星	6,360	440	279,840	7,500	440	330,000	
	夢ささら	30	400	1,200	30	400	1,200	
	きぬはなもち	400	360	14,400	400	360	14,400	
水稲計		33,380		1,372,320	41,340		1,714,400	
合　計		33,380		1,372,320	41,340		1,714,400	

イ、種子場別

単位:a. Kg

種類	JA名	品種名	種子生産ほ場面積		反収	種子生産計画数量	摘要
			令和5年産	令和4年産			
水稲	なすの(黒羽)	コシヒカリ	15,580	16,590	400	623,200	
	なすの(大田原)	夢ささら	30	30	400	1,200	
		計	15,610	16,620		624,400	
	なす南	コシヒカリ	6,620	7,050	400	264,800	
	しもつけ	あさひの夢	3,320	8,100	440	146,080	
		とちぎの星	3,180	3,750	440	139,920	
		きぬはなもち	400	400	360	14,400	
		計	6,900	12,250		300,400	
	はが野	とちぎの星	3,180	3,750	440	139,920	
	しおのや	なすひかり	1,070	1,670	400	42,800	
水稲計			33,380	41,340		1,372,320	
合　計			33,380	41,340		1,372,320	

(有機栽培種子)

種類	品種名	令和5年産種子生産計画			令和4年産種子生産計画			摘要
		面積	反収	数量	面積	反収	数量	
水稲	コシヒカリ	129	130	1,680	100	130	1,300	民間稲作研究所

(飼料用米専用品種種子)

種類	品種名	JA名	令和5年産種子生産計画			令和4年産種子生産計画		
			面積	反収	数量	面積	反収	数量
水稲	夢あおば	しもつけ	6,646	560	372,180	−	−	−
	月の光	なすの	3,400	440	149,600	−	−	−

令和４年産大豆種子生産実績及び
令和５年産大豆種子生産計画

１　令和４年産大豆種子の生産実績

播種は、６月の降水量が平年を下回ったことから、茎立ちは概ね良好となり、開花は、８月上旬から始まり着莢数は平年並み～やや多くなりました。

８月中旬～９月中旬は、平年に比べ日照が少ない期間がありましたが、収穫量に大きな影響はなく、最終的な生産実績は契約対比約 120％と必要種子量を確保することができました。種子生産者並びに関係機関の皆様へこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

２　令和５年産大豆種子の生産計画

令和５年３月 29 日に開催した令和５年産大豆種子生産ほ場設置計画会議において、生産計画が承認されました。大豆は健康志向の高まりから国内の需要が堅調に伸びており、作付面積も増加しております。それに伴い種子需要も増えていることから、各種苗事業者（種子場 JA）との協議のうえ、生産計画数量を前年対比約 111％としました。

令和4年産大豆種子生産実績

単位:a, kg, %

JA名	品種名	面積	契約数量	実績数量	対比	合格	準A	準B
なすの（大田原）	里のほほえみ	1,210	21,780	29,100	134	20,850	8,250	0
なすの（黒磯）	里のほほえみ	906	16,320	20,520	126	3,780	15,300	1,440
なすの（黒羽）	里のほほえみ	540	9,720	5,940	61	3,570	2,370	0
なすの　計		2,656	47,820	55,560	116	28,200	25,920	1,440
なす南	里のほほえみ	735	13,230	17,460	132	14,550	2,880	30
合　　計		3,391	61,050	73,020	120	42,750	28,800	1,470

令和5年産大豆種子生産計画

ア. 品種別　　単位:a, kg

品種名	令和5年産種子生産計画			令和4年産種子生産計画			摘　要
	面積(a)	反収(kg/10a)	数量(kg)	面積(a)	反収(kg/10a)	数量(kg)	
里のほほえみ	3,753	180	67,560	3,391	180	61,050	
合　計	3,753		67,560	3,391		61,050	

イ. 種子場別

JA名	品種名	種子生産ほ面積(a)			反収(kg/10a)	生産数量(kg)	摘　要
		令和5年産	令和4年産	前年対比(%)			
なすの(大田原)	里のほほえみ	1,280	1,210	106	180	23,040	
なすの(黒磯)	里のほほえみ	863	906	95	180	15,540	
なすの(黒羽)	里のほほえみ	600	540	111	180	10,800	
	計	2,743	2,656	103		49,380	
なす南	里のほほえみ	1,010	735	137	180	18,180	
合計		3,753	3,391	111		67,560	

令和５年度事業計画

公益社団法人　栃木県米麦改良協会

Ⅰ．事業方針

アフターコロナにおけるライフスタイルの変化やウクライナ等の国際情勢、種子生産者の経営実態（肥料・農薬等の高騰、国の交付金制度等）を十分に踏まえながら、主要農作物優良種子の安定生産・安定供給を確保し、栃木県水田農業の経営安定と所得向上に貢献します。

また、「栃木県奨励品種の優良な種苗の安定供給に関する条例」に基づく「種苗生産等計画策定者」として、種子生産者の高齢化や施設の老朽化等を踏まえ、県内種子産地が将来にわたって維持・発展していくための課題の整理、対応策の検討を進めます。

Ⅱ．実施事業

１．優良種子の安定生産と供給

主要農作物生産の基礎となる優良種子の安定生産と供給を図るため、計画的な種子生産や生産指導と品質向上、種子の供給、品質管理、種子生産体制の強化などを実施します。

（１）種子生産計画

事前予約された需要数量を基本に、流通動向、新品種の振興計画、備蓄数量などを勘案して県・関係機関と協議の上、「種子生産計画」を策定し、種子の生産にあたります。

※令和５年産種子生産計画：別表１

〈主な事業〉

・種子生産計画の策定
・作付品種の許諾契約締結
・種子生産者と採種ほ場面積の確保
・他県との連携による種子生産の受委託

（２）飼料用米多収品種の種子確保

飼料用米の助成金が令和６年産より見直しされることにより、一般品種から飼料用米多収品種への大転換が想定され、５年産において飼料用米多収品種の種子生産に取組み、今後の急激な需給変化に備えます。

〈主な事業〉

・関係機関との連携による種子生産の指導
・品質向上対策の実施（品種切替圃場への漏生対策等）
・６年産種子の需要に応じた生産計画の策定

（３）生育状況の確認

ほ場確認等へ参加し、種子生産ほ場での生育状況を確認し必要な対策を助言指導するとともに生産見込数量の的確な把握に努める。

〈主な事業〉

・ほ場確認会、生産物確認会
・下見指導会、農産物検査の立会・確認

（４）混種事故防止

あらゆる機会、方法を通じコンタミ事故を絶対に起こさないための指導徹底に取り組みます。

〈主な事業〉

・種子ＧＡＰの実践促進や異品種混入防止チェックシートの配付
・種子生産者の1品種作付け推進
・原種消毒および原種専用ネット使用の指導
・収穫等機械の共同利用の促進

別表1　令和5(2023)年産主要農作物種子生産計画

（単位:ha、t）

種類	品種名	計画面積 (ha)	計画数量(A) (t)	4年産生産計画 数量(B) (t)	前年産比 (A)/(B)
主食米	コシヒカリ	222	888	946	94%
	あさひの夢	33	146	356	41%
	なすひかり	11	43	67	64%
	とちぎの星	64	280	330	85%
	夢ささら	0	1	1	100%
	きぬはなもち	4	14	14	100%
	小計	334	1,372	1,714	80%
飼料米	夢あおば	66	372	－	－
	月の光	34	150	－	－
	小計	100	522	－	－
水稲計		434	1,894	1,714	110%
六条大麦	シュンライ	44	110	104	106% 注1
二条大麦	ニューサチホゴールデン	213	692	692	100%
	とちのいぶき	5	18	18	100%
	小計	218	710	710	100%
小麦	さとのそら	15	55	61	89%
	イワイノダイチ	11	35	26	131%
	タマイズミ	16	51	59	87%
	ゆめかおり	12	29	23	129%
	小計	53	170	170	100%
麦類計		315	991	984	101%
大豆	里のほほえみ	38	68	61	110%
合　計		*787*	*2,953*	*2,759*	*107%*

注1）シュンライ8tを県外に委託し、シュンライ計画数量は118tとなります。

有機水稲	コシヒカリ	1	2	2	108%

（５）種子品質の確認・管理

種子検査見本品の作製・配付や調製程度確認会を開催するとともに産地における発芽試験結果の確認、備蓄種子の発芽試験等を行います。

また、稲種子のDNA分析を実施して　混種事故を未然防止します。

〈主な事業〉

・種子検査見本品の作製・配付と調製程度確認会の開催・稲種子DNA分析・調査の実施
・備蓄種子の発芽試験の実施

（６）受検対策

受検対策会議を開催し、事前指導事項の徹底を図り、栃木米品質の高位平準化と円滑な受検の実施を図ります。

・米受検対策会議の開催
・受検指導資料の作成配付

（７）種子の需給調整

需要に応じた優良種子の安定供給を 図るため、関係機関・団体とともに種子の需要動向を把握し「種子需給計画」を策定するとともに、不測の事態等に備え計画的に種子の備蓄（低温保管）を行います。

〈主な事業〉

・種子需給計画の策定
・計画的な種子の備蓄（回転備蓄）
・種子消毒の実施（備蓄種子の消毒含む）
・残量処理の実施（発生に応じた処理と需要生産者の費用負担）
　※残量処理財源は、稲・麦類・大豆の種子販売価格に10円/kgを加算します。
・事故処理の実施（発生に応じた処理と種子生産者の費用負担）
　※事故処理に備えて、種子生産者から１円/kgを預かります。

（８）種子生産技術の向上

各種研修会の開催、種子伝染性病害 等防除への助成を行い、種子生産技術及び品質の向上を図ります。

〈主な事業〉

・種子品質向上研修会や種子生産研修会の開催、栽培講習会への参加
・種子伝染性病害等防除への助成
・GAPシートの配布

（９）消費者・実需者から選ばれる主要農作物の生産（一般栽培）

主要農作物の品質向上に向け、栽培技術指導及び品質改善指導資料を作成し生産者に配付します。

また、安全・安心な高品質・良食味の農産物を生産するため、地域の生産者を対象に地方農業振興協議会が実施する各種講習会に助成します。

(10) 広報活動

協会情報紙「とちぎ 米麦改良」を発刊・配付するとともに当協会ホームページにて生産者や関心のある一般消費者向けに生産技術等各種情報を提供します。

２．種子生産体制の強化

稲麦大豆の優良な種子が将来にわたって安定供給されるよう種子生産者や種子場JA、種子センター等の現状と課題を踏まえた種子生産体制強化に取り組みます。

〈主な課題〉

・稲　：飼料用米の助成金の見直しによる種子需給の急変
・麦類：種子需要への供給不足（品種：シュンライ、ゆめかおり）
・大豆：種子需要への供給不足
・全体：生産者の高齢化に対する後継者の確保、種子センター等の老朽化

〈主な事業〉

・各種子産地のヒアリング・意見交換
・「種子生産体制強化検討会」での検討
・今後想定されるビール麦２品種体制への対応
・種子生産情報システムの効率的な運用

別表２　令和5(2023)年度主な事業活動予定

実施事業	事業活動の展開												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
種子取扱会議	○												
種子品質向上研修会					○								
種子生産研修会											○		
採種ほ設置計画会議					○麦						○稲	○大豆	
調製程度確認会			○麦				○稲		○大豆				
受検対策会議				○									
ほ場確認会	○麦→	→	→	○稲→	→	○大豆→	→	→					
生産物確認会・検査・下見会			○麦→	→			○稲→	→	○大豆→	→	→		
混種事故防止対策	○→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	重点事項
発芽調査			○麦→	→			○稲→	→	○大豆→	→			
備蓄種子残量処理										○→	→	→ ○	
事故処理													発生の都度
技術指導資料作成配布	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	適時
助成金・交付金						○→	→	→		○→	→	→ ○	
「とちぎ米麦改良」の発行		○				○				○			
協会ホームページ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	通年掲載
総会			○									○	
理事会			○					○				○	
幹事・事務局員会議		○						○			○		

（公社）米　麦　改　良　協　会　情　報

種子生産研修会を開催しました

優良種子の生産と安定供給を図るための課題を共有し、生産技術の向上を図ることを目的に種子生産者研修会を２月に開催していますが、昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大から WEB 開催でした。本年度は、３月６日、ホテル東日本宇都宮において生産者が一堂に会して開催しました。

◆講演概要

県農業試験場の研究室の担当者より、「夢ささらの育成秘話や栽培方法」、「大豆の収量向上・省力化」、「ビール大麦の新品種育成状況」について丁寧な説明をいただきました。

◆部会表彰

優良種子の安定供給と品質向上を図るためには、種子生産の重要性を生産組織全体が認識し、採種技術の高位平準化と意識の高揚が重要になります。このため採種事業に積極的に取り組み、貢献された組織に対し優良種子生産部会として表彰しています。今年度は、次の３部会が受賞されました。

（稲種子の部）

「那須野農業協同組合　黒羽採種部会」

「コシヒカリ」の生産をし、異常気象が頻発している状況の中においても、生産者の努力により７年連続で契約達成率 100％、合格率 100％、数量・品質ともに安定しています。

（麦類種子の部）

「足利市農業協同組合　小麦種子部会」

菓子用等の原料として取り引きされている「さとのそら」を生産しております。収穫時期の降雨により、倒伏や赤カビに発生が懸念される中において、生産者の徹底した管理により契約達成率 105％を達成し、麦種子需給の安定に大きく貢献しました。

（大豆種子の部）

「那須野農業協同組合　下中野大豆組合」

国内産大豆の需給が高まっている中で、「里のほほえみ」を生産し、生産者の努力により契約達成率106％を達成しました。数量・品質ともに安定しています。

第28回臨時総会を開催しました

令和５年３月27日に第28回臨時総会を開催しました。令和５年度事業計画並びに収支予算、令和５年度会費並びに徴収方法の決定、令和５年度借入金最高限度額、令和５年度役員報酬額について協議され、すべて原案どおり承認されました。

大豆の種子が不足しています！

本県の大豆種子需要は、令和４年産が約65ｔでしたが、令和６年産は、約70ｔが見込まれています。本県の大豆種子生産供給実績は、約67ｔ（過去３年平均）であり大豆種子の慢性的な不足が続いています。

本会では、このような状況を打開するため、令和５年産種子買取価格を前年対比12％増額するとともに、準種子Ｂにおけるしわ粒の混入限度を全体40％まで緩和する等、大豆種子生産に取り組みやすい環境づくりに努めています。

大豆種子生産に取り組みやすい環境が整いつつある今こそ、大豆種子生産を農業経営の一環に取り込むことを検討されてはいかがでしょうか。

New Seed Producer

JA なす南　種子大豆生産部会

平山 敬（たかし）さん（48 才）

なぜ大豆の種子生産を始めたのですか？

・５年前までロボット工作機器メーカーに勤めていましたが、農業生産にも興味があり、自宅でバラ栽培などをずっとやっていました。縁あって米麦のモデル的経営農家から農業経営についてお話を伺う機会があり、種子を生産する部会があることを知りました。分野は違うもののモノづくりに携わってきた私にピッタリ合うと考え、思い切って会社を辞めて、その方のもとで種子生産や米麦経営を３年間学びました。

・大豆種子は、選別調製作業が大変で一般栽培しか経験がありませんでしたが、昨年、種子出荷基準の見直しがあり、色彩選別機と組み合わせることで、自分でもやれると思い、今年から140aの大豆種子生産を始めました。

種子生産への思いは？

・前職の経験から、「ゼロからモノをつくること」にこだわりがあります。種子はまさに農業生産の原点であり、責任も重くプレッシャーも感じますが、それだけにやりがいもあり、できた「種子」を「製品」と呼びたいくらいに思っています。

将来の夢は？

・稲や麦の種子生産にも取り組み、将来、雇用ができる経営に発展させていければと考えています。そのためには、もっともっと経験を積み、栽培技術の向上と圃場のローテーション体系を図り、地域に信頼していただけるよう努めていきたいと考えています。

「準種子Ｂ」の出荷基準を見直しました！

（栃木県米麦改良協会）

・大豆種子生産の最大のネックとなっていた選別作業の負担軽減に向け、栃木県米麦改良協会が設定している「準種子Ｂ」の出荷基準を下記の通り見直しました。

しわ粒：40％まで可（令和4年産～）

・病害による斑点粒は、色彩選別機でほぼ除去することが可能で、これらにより大豆種子の大規模経営が可能となりました。

しわ粒

大豆色彩選別機